



当公演は、質の高いオペラを、手頃な価格で市民の皆様に提供するとともに、公演を通して、スロヴァキアと日本との文化交流を行うことを目的としています。

since 1959
63th

高知スロヴァキア国立オペラ 2023

バンスカー・ビストゥリツァ スロヴァキア国立歌劇場 2023 日本ツアー



コンサートオペラ

プッチーニ作曲

蝶々夫人

Madama Butterfly

オペラのエッセンスを凝縮し、ナレーションで紡ぐコンサートオペラ。スロヴァキア国立歌劇場の主演級のソリストたちが繰り広げる圧倒的な歌の世界。

2023. **10.9** (月・祝)

午後 1 時 30 分開演 (午後 1 時開場)

高知県立県民文化ホール

グリーンホール

第一部：コンサートオペラ「蝶々夫人」

第二部：オペラとオペレッタ、ミュージカルの名曲

● 入場料

全席自由 前売券 3,800 円
当日券 4,000 円

※未就学児の入場はご遠慮ください

● チケット販売

高知県立県民文化ホール
高知県立美術館ミュージアムショップ
楽器堂オーパス 本店
楽器堂オーパス イオンモール高知店
チケットぴあ (Pコード：247132)
スロヴァキア国立オペラ高知実行委員会
E-mail : sluncemesic@outlook.jp
電話：090-2190-9878

● 主催 スロヴァキア国立オペラ高知実行委員会

● 後援 日本チェコ協会 / 日本スロバキア協会北海道支部・スロヴァキア共和国文化省・駐日スロヴァキア共和国大使館・高知市教育委員会・公益財団法人高知市文化振興事業団・高知新聞社・RKC 高知放送・KSS さんさんテレビ・KUTV テレビ高知・関西チェコ / スロバキア協会



パトリーツィア・マロヴェッツ
ソプラノ



カタリーナ・プロハースコヴァー
ソプラノ



ドゥシヤン・シモ
テノール



シモン・スヴィトック
バリトン
＜監督、照明、舞台＞



ペテル・ラチュコ
テノール



マリアナ・サイコ
ソプラノ



マルティナ・スヴィトコヴァー
ピアノ



ルドルフ・フロマダ
歌劇場総支配人



橋本ダナ
ナレーション



Kochi Slovakia Opera 2023

第一部 コンサートオペラ『蝶々夫人』

(ジャコモ・プッチーニ作曲 オペラ『蝶々夫人』ダイジェスト版)

・登場人物 / 出演

蝶々さん (没落士族の娘)	パトリーツィア・マロヴェッツ (M) / カタリーナ・プロハースコヴァー (P)
ピンカートン (アメリカ海軍士官)	ドウシャン・シモ
シャープレス (米国領事)	シモン・スヴィトック
ゴロー (斡旋屋)	ペテル・ラチュコ
スズキ (蝶々さんの女中)	カタリーナ・プロハースコヴァー / パトリーツィア・マロヴェッツ
ケイト (ピンカートンの米国での妻)	マリアナ・サイコ

本公演はダブルキャストで、M版またはP版のいずれかになります。公演当日にお知らせいたします。

・あらすじ

19世紀末の長崎。ここに赴任してきたアメリカ海軍士官のピンカートンは、斡旋屋のゴローに、住む家と現地妻になる女性の紹介を依頼します。ゴローは丘の上の素敵な家に、元は武家ですが父親が自害したため、若くして芸者となった蝶々さんを連れてきます。互いに好意を持った二人の間に早速契約が交わされ、蝶々さんの親戚も参列して結婚式が行われます。しかし蝶々さんがキリスト教に改宗したことを知った僧侶の叔父は、花嫁をご先祖様を裏切ったと怒り、親戚は彼女を勘当してその場を立ち去ります。蝶々さんの一途な心を知っている米国領事のシャープレスはピンカートンの軽率な振る舞いを見て、蝶々さんの将来を案じます。

蝶々さんの幸せな結婚生活も束の間、ピンカートンはアメリカに帰ることになります。すぐに戻ってくると約束しますが、1年、2年と過ぎていき、蝶々さんの暮らしも段々と苦しくなっていきます。斡旋屋のゴローからは新しい結婚相手を紹介されますが、蝶々さんは夫の帰りを信じて断ります。領事のシャープレスは、夫はもう戻ってこないという手紙を持てますが、蝶々さんに子供がいると知って、その内容を伝えられません。逆にピンカートンに子供のことを知らせると約束して帰ります。そして3年が経ったある日、港にアメリカの軍艦が入港します。それに夫のピンカートンが乗っていると知った蝶々さんは一晩中家で夫の帰りを待っています。彼は次の日の朝、妻と一緒にやってきますが、女中のスズキから蝶々さんの想いを聞いて、その場から逃げてしまいます。目が覚めた蝶々さんは庭先にいる外国人の女性を目にし、彼女がだれなのかすぐに悟り、絶望します。蝶々さんはピンカートン夫人の申し出を聞き、父親が迎えに来るならば、愛する息子を引渡すと約束します。そしてピンカートンが子供を迎えに来ますが、時すでに遅し。蝶々さんは父の形見の短刀で自害し、息を引き取ります。

第二部 オペラとオペレッタ、ミュージカルの名曲

1. A. ドヴォルザーク「ルサルカ」より「王子のアリア」 P. ラチュコ
2. G. プッチーニ「ラ・ボエーム」より「ミミのアリア」 P. マロヴェッツ / K. プロハースコヴァー
3. J. オッフエンバック「ホフマン物語」より「オランピアのアリア」 M. サイコ
4. G. ロッシーニ「セビリアの理髪師」より
「黙って、黙って、静かに、静かに」 M. サイコ、P. ラチュコ、S. スヴィトック
5. E. カールマン「チャールダーシュの女王」より「シルヴァの歌」 P. マロヴェッツ / K. プロハースコヴァー
6. J. シュトラウス「こうもり」より
「ロザリンデとアイゼンシュタインのデュエット」 M. サイコ、P. ラチュコ
7. A. ララ「グラナダ」 S. スヴィトック
8. F. レハール「微笑みの国」より「スー・チョンのアリア」 P. ラチュコ
9. L. バーンスタイン「キャンディード」より「着飾ってきらびやかに」 M. サイコ
10. E. カールマン「チャールダーシュの女王」より
「ハイマーシ・ペーテルとパール」 P. マロヴェッツ / K. プロハースコヴァー
P. ラチュコ、S. スヴィトック
11. F. サルトーリ「タイム・トゥ・セイ・グッバイ」 ソリスト一同